

## 沿革

本町は、明治28年に和歌山・岐阜・愛知から179戸が入植し、厳しい自然と闘い、また共存しながら、幾多の困難を乗り越えて今日の礎を築きました。

当時愛別原野は鷹栖村及び永山村に属していましたが、明治30年、鷹栖村の東北部と永山村の東部を分割して愛別村が誕生しました。

日々開拓に汗を流した先人たちの尊い努力で、うっそうたる原野は豊かな大地へと生まれ変わり、きのこ・米・畜産を基幹産業とした農業の町として躍進を続けています。

また日本で初めて自家用の飛行機を持った先進的な町であることも特筆すべき個性です。

## 町章

愛別の町名はアイヌ語のアイベツトから来ており、矢の川という意味です。その昔、この辺りは急傾斜の土地で、川の流れが矢のように速いところから命名されたものです。それに旭日を配し、愛別は旭日昇天の勢いで発展するとの願いをこめて制定されました。昭和9年11月6日制定。



## 行政 議会

本町の行政機構は、町長部局5課・議会・教育委員会・農業委員会・選挙管理委員会で構成されています。

まちづくりは今、町民参加の時代です。本町においても広く町民の声を反映した「対話による開かれた町政」をモットーに、町長室を解放し、誰もが直接町長と話ができる機会をつくるなど「町民が誇れるまちづくり」を進めています。

また町議会は町民の意思を代表・決定する機関として、年4回の定例会と必要に応じて臨時会を開き、重要施策を審議しています。

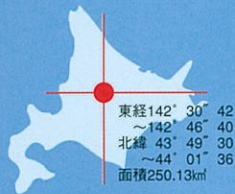


## 気候

大雪山連峰に囲まれた上川盆地の東北端に位置するため、内陸性気候で寒暖の差が大きく、気温は夏には30℃、冬には氷点下20℃を超えることもあります。年平均気温は5℃前後、年間降水量は800mm、降雪量は6m程度です。

## 位置・地勢

本町は北海道のほぼ中央に位置する上川盆地の東北端、北海道の屋根と呼ばれる雄大な大雪山連峰の麓にあります。東は上川町、西は比布町、南は当麻町と接しており、北は山脈を境として土別市に接しています。車で旭川市内まで約45分、旭川空港からは、東京、名古屋への直行便があります。



町木 さくら



町花 つつじ



町章